

ナイスケアだより

第122号

令和4年7月発行

7月初旬からコロナウイルス感染者の人数が急激に増え、第7波が来た印象です。

今回は、政府による感染対策の実施が不透明なことや3回目ワクチン接種を終えていない方が多いことなど不安要素があります。今年の夏は早い梅雨明けで長い猛暑となり、熱中症や脱水症となる高齢者も増え、対応がより難しくなってきました。熱中症や脱水症になると体温が上昇するので、コロナウイルス感染と見極めが難しくなります。さらに気温が高いため、室内換気やマスクの着用が難しい状況となり、十分気をつけながら対応をしなければなりません。

事業所としては、マスク、手洗い、消毒、うがい、換気、毎日の検温など感染予防対策を継続して行っています。今後も基本的な対応は変わりなく実行していきます。課題としては、もし職員が感染や濃厚接触者となり自宅待機となった場合の職員体制の確保です。代替えの職員をすぐに見つけることは難しいので、会社全体で互いにフォローしながら取り組んでいきたいと考えています。

再度気を引き締めながら今後の動向をしっかりと見て準備をしていきます。



有限会社ナイスケア 代表取締役 塩川 隆史

～しんぶん配達の日(7月14日)～

日々暑さが増していき、本格的な夏の季節ももうすぐそこまで来ています。7月14日は新聞販売所の全国組織である日本新聞販売協会が制定した『しんぶん配達の日』です。

この日は、日本初の気象衛星『ひまわり』が打ち上げられた日でもあり、気象衛星が地球を回って情報をもたらすことと、毎日早朝から雨や雪の日でも定時に配達する方々が一軒一軒回って社会の知識、情報を提供する事が共通点となり、働いている従業員にスポットライトを当てたいとの思いからこの日が記念日に制定されたというお話です。



最近ではパソコンやスマホなどで簡単に情報が手に入る時代となり、新聞の購読や販売所の減少が多くなっています。知り合いの新聞販売所長のお話を聞くと販売所の担い手は減ってきて、配達する従業員も減って大変と話されていました。早朝の風物詩のような自転車やバイクのカブでの配達の様子が少なくなっていく事は寂しいなと思います。

新聞を手にとって読みたい、配達してくれないと困るなどといった方がたくさんいると思うので、国などで見直しをして改善して欲しいと思います。

荒井 亮介